

身近に潜むエイジズム

3年3組10番 岡本 春陽
 3年4組8番 加藤 梨織
 3年4組12番 白石 愛心
 3年4組34番 柳下 ひより

Keyword: 「エイジズム」 「高齢者」 「偏見」 「差別」 「年齢」

1.はじめに

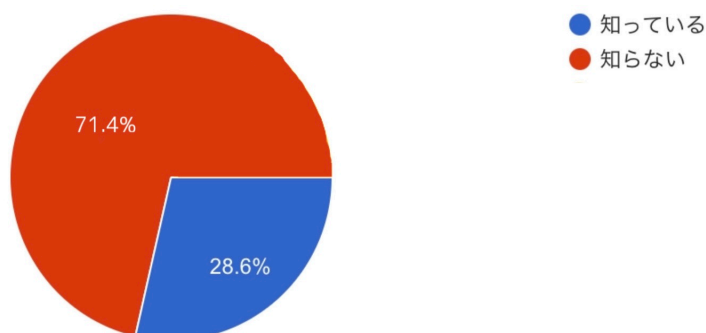
エイジズムは、年齢に基づく偏見や差別を意味する言葉である。特に、高齢者に対するエイジズムが社会問題として浮上しており、家庭、職場、医療、メディアなど、日常生活の様々な場面で見られる。エイジズムは、老いに対する否定的なイメージから生じ、個人の権利を失うだけでなく、社会全体の成長を妨げる要因となる。実際に「この歳でこの服は着れない」や、「若いんだから席を譲りなさい」などといった場面を見かけたことがある。そこで私たちは、このような日常生活に潜むエイジズムの実態を探り、その影響と対策について探究することにした。

2. 序論

エイジズムは、1961年にアメリカ国立老化研究所の初代所長であるバトラーが作った言葉であり、最近では、レイシズム、セクシズムに次いで第3の「差別」として位置づけられている。それがエイジズムである。一般的にエイジズムは否定的な面に注目されることが多く、前述したように、エイジズムは「高齢者に対する偏見と差別」として捉えられている。このように、エイジズムは偏見、差別の面が強調されがちであるが、それを生じさせるステレオタイプ化された考え方、見方までも含む概念である。このようなエイジズムの実態を調査するために、私たちは国際高校の生徒87人に対してエイジズムの知名度と年齢を理由に不快な思いをした事があるか、またどのような時にそれを感じたかアンケートを行った。

3. 本論

アンケートでは、71.4%の国際高校の生徒が知らないと回答した。年齢を理由に不快な思いをした事があると回答した生徒は72.7%だった。その中でも特に多かった回答は、「若いんだから重いものを持ちなさい」や「若いんだからもっと動きなさい」また、ある年配の方の服を見て「こんな服絶対着れない」と言っている大人を見たという回答もあった。エイジズムの知名度を、国際高校の生徒がエイジズムを知らないように、世間一般の人々もエイジズムを知らない人が多い。エイジズムが知られていない理由として、エイ



ジズムは「年齢に基づいた差別は身近であり、誰もが起こりうること」だからだ。それが日常で恒常化してしまい、差別だと認識しないでいる人が多くなってしまっている。

若い人に向けた差別として「アダルティズム」というものが存在する。アダルティズムとは子供は大人の支配下にあるという考え方であり、大人は子どもよりも知識や経験が豊富で、若者の同意を得ることなく物事を決定して進めていくことができるという考え方である。若者は、それぞれの時代の大人の価値観や文化を常識として内面化していく。しかし、若者も大きくなり自分の周囲の大人以外の価値観や信念の違いに触れることによって自らの内面化してきた文化や価値観に疑問を抱くようになる。そして、次第に若者は、大人の価値観や文化に批判的になっていく。それに対して、大人は、若者の新しい価値観や文化を否定し抑圧しようとするため、大人と若者との間に対立が生まれることになる。これは大人の態度、思念、行動に依存することとも捉えられる。アダルティズムは、子どもや若者に対する恐怖心によって引き起こされていく。若者の同意を得ることなく、また対話することなく物事を決定していく方法を「アダルティズム」と考える。

老年学研究や調査プロジェクトを指揮しているデューク大学の教授であるアードマン・B・パルモアがエイジズムに関する著書を出版している。パルモアはエイジズムとは、ある年齢に対する差別だと述べている。その差別を「肯定的エイジズム」と「否定的エイジズム」に分けている。肯定的エイジズムとは年齢を理由に優遇されることをいう。医療費や交通機関の無償化や、シニア割、敬老の日や還暦など高齢者を敬う文化が肯定的エイジズムである。反対に否定的なエイジズムも存在し、否定的なエイジズムは高齢者が年齢を理由に否定的に差別されることだとされている。例えば、賃貸住宅への入居拒否である。高齢者の認知症に伴って家賃の滞納や孤独死などの可能性があるため決めつけたり、高齢者が運転するのは危険だと決めつけ運転免許の返納を求められたりしている。更に定年制度もエイジズムのひとつとされている。高齢者は作業効率が低下し、生産性に欠けると理由づけられている。これにより近年では、高齢者を「冷静な判断力が鈍る社会的弱者」と見なしている。

4. 結論

エイジズムの概念をなくすためには、エイジズムが社会に与える影響を考え、それを軽減していく対策が重要視される。エイジズムは年齢に基づく偏見を意味する言葉であり、特に高齢者が対象となる。この偏見は、雇用や医療、社会的参加などさまざまな場面で悪影響を及ぼしてしまう。エイジズムを少しでも軽減するためには、年齢に対する偏見をなくし、全ての人に尊敬を持った態度を示すことが重要だと私たちは考える。また、エイジズムに対する法を整備したり、年齢に関わらず平等に評価されるシステムを導入することによって、より良い社会が築かれると考える。エイジズムの克服は、全ての世代が豊かに暮らすための第一歩となるだろう。

5. おわりに

私たちは探究活動を通してエイジズムの理解を深めた。また、「たてに繋がる交流会」を通してエイジズムへの関心を持っていただくことに努めた。これらの活動を踏まえて、これからの私たちは、エイジズムに対する意識を更に高めていきたい。また、エイジズムへの意識を高めてもらうために小学校や介護施設などに出向き、啓発活動を行っていきたく考えている。

6. 参考文献

(1) Ashton Applewhite : Let's end ageism | TED Talk (2017)

https://www.ted.com/talks/ashton_applewhite_let_s_end_ageism

(2) 対話から考えるエイジズムのこと

https://media.lifull.com/campaign_2021091606

(3)地球規模の高齢化におけるWHOの取り組み

https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/2018/181021/201805002A_upload/201805002A0009.pdf

(4)エイジズムとはー意味と年齢による決めつけをなくすポイント- 『日本の人事部』

<https://jinjibu.jp/keyword/detl/1656/#:~:text=%E3%80%8C%E3%82%A8%E3%82%A4%E3%82%B8%E3%82%BA%E3%83%A0%EF%BC%88Ageism%EF%BC%89%E3%80%8D%E3%81%A8,%E3%82%82%E5%AD%98%E5%9C%A8%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>